



ミアとムージー

優しさの物語

シュエタ・バラ著
イラスト : サハナ・バラ



大きな町にミアという女の子がいました。ミアは遊ぶこと、踊ること、歌うことが大好きでした。ミアの人々に対する明るい態度のおかげで、近所の人々は皆、ミアのことが好きでした。ミアは人々に楽しそうに挨拶し、人々は笑顔で彼女を迎え返しました。



ある日、ミアは水の入ったプラスチックカップとポテトチップスの入った袋を手に公園を散歩していました。使い終わると、彼女はそれらをリサイクル箱ではなく地面に捨てました。ミアの友人の一人、エミリーは彼女の行動を見て、彼女のゴミを見て非常に驚きました。

彼女はミアに近づき、「なぜ草の上にゴミを捨てたのですか？」と尋ねました。

ミアさんは「近くにゴミ箱がなかったので、そこに捨てました」と答えました。

「それでもそんなことはしないほうがいいよ、ミア。環境に悪いですよ。」とエミリーは言いました。

「それはただのゴミ2個でした。」ミアはそう言った。

「それをあなたの家でやりますか？ゴミを2個残しますか？
考えてみてください、ミア、あなたはすぐに正しい決断を下すでしょう。」
その後、エミリーは家に帰り始め、ミアは自分が何をしているのか考え始めました。



その夜、ミアはこれまで見た中で最も奇妙な夢を見ました。夢の中で、ミアはムージーという名前の牛に近づけられました。

ムージーは自己紹介をしました。「こんにちは、ミア！」私はムージーです。そうならないでください
恐れている！公園で何が起こったのか話したいのですが。」

ミアは「小さなゴミがなぜそんなに心配になるのですか？」と尋ねました。

「あなたのしたことは環境に悪いです。私と一緒に来て、私たちも
さまざまな場所に行って、ゴミについて彼らがどのように感じているかを確認するつもりです。」

ミアも同意し、二人は小道を歩き始めました。



森の中を歩いていると、ミアは池で悲しげに話す白鳥が泳いでいるのを見つけました。

ミアは彼女に「どうしたの、スワンさん？」と尋ねた。

白鳥は、「私が食べたり泳いだりする池にはゴミがたくさんあります。私たちの多くはゴミのせいでお腹を空かせています。人々がポイ捨てをやめて環境に貢献してくれればいいのにと心から思います。

今よりも多くの生き物が生きていて幸せになるでしょう。」

ミアは可哀想な白鳥を見て、その悲しい話を聞いてとても悲しかったです。



すぐに、ムージーとミアは森の中を散歩しました。そこには小道が続いていました。すると、細い枝が垂れ下がった、とても弱い木が見えました。ミアはツリーに「ツリーさん、どうしてそんなに悲しいの？」と尋ねました。その木はこう答えました。「私たちの多くは、ゴミのせいで栄養を得ることができなくなったので、果物を生産するのをやめました。私たちの多くは病気になり、衰弱しつつあります。このポイ捨て習慣が続けば、私たちはすぐに永久に去ってしまうでしょう。私たちは人類のために多くのことを行っています。私たちは彼らに素晴らしい自然が見られる国立公園を与えます。私たちは彼らに呼吸するための空気、家のための木材、そして動物や鳥のための場所を与えていますが、それでも彼らは私たちを傷つけ続けています。」

ミアは可哀想な木がひどく苦しんでいるのを見て心が痛くなりました。



ミアとムージーは、できる限りのことをして木を落ち着かせた後、木の枝の上ですすり泣く人懐っこい鳥を見つけました。

ミアは「鳥は何ですか？」と叫びました。なぜ泣いているのですか？

鳥は答えました。「食べ物を探していたとき、地面に何かが落ちているのを見つけました。ひよこに与えられる食べ物だと思いました。

それはゴミだったことが判明し、今では私の小さな子供たちが病気になっています。これもすべてゴミを捨てる人間のせいです。なぜ人間はゴミをリサイクル箱に捨てずに地面に捨てなければならないのでしょうか？」



ミアは非常にショックを受け、自分が巻き込まれたすべての被害を見て泣き始めました。彼女は、自分や他の人がこのひどい行為を続ければ、環境が破壊されることに気づきました。彼女は自分が気づかずにこれを行っていたことに気づきました！

ミアはムージーにこう叫びました。「今、自分が何が悪かったのか分かりました。地球を自分の家のように扱うべきです。ムージー、案内してくれて、気づかせてくれてありがとうございます。」

ムージーはこう答えました。
言う。常に親切で環境を守ることを忘れないでください。」



アラームが鳴ったとき、ミアは地球をより良い場所にする方法を知っていたので、より明るく幸せに目覚めました。ミアは環境クラブを立ち上げ、環境保全に関する知識を共有しました。ミアが空を見上げると、ムージーが自分に微笑みかけているのが見えました。

終わり

ミアとムージーの作成者について:

シュエタ・バラさんは、「ミアとムージー」を執筆した2020年には10歳で、オンライン学校ローレル・スプリングス・スクールの5年生でした。

シュエタさんの妹であるサハナ・バラさんは、カリフォルニア州サンノゼのリンブルック高校の9年生、15歳の時にこの物語を描いた。

Moozie and Children's Kindness Network における彼らの親切な取り組みは次のとおりです。

ストーリー:

- ミアとムージー
- ムージーの優しさの魔法
- ムージーのポジティブな言葉
- ムージーとサーカス

詩:

- ムージーの詩

パズル:

- ムージーの単語検索
- 言葉のスクランブルを解く

ポスター (Covid パンデミックの初期に作成):

- ムージーはマスクを着用するべきだと言う
- 手を洗うムージー

ネバーグリーンシティのムージーとレインボー

コリン・バルカ著



全著作権所有

こどもやさしさネットワーク が発行

www.moozie.org

ネバーグリーンシティのムージーとレインボー

コリン・バルカ著

牛のムージーはとても親切です。彼女ほど優しい生き物は他にいない。ある朝メールが届いたとき、彼女は子牛のレインボーと優しく遊びました。農夫のテッドがそれを調べに行きました。

「ムージー、何かあるよ！」農夫のテッドが郵便受けから電話をかけてきた。ムージーは自分の名前を聞くと、物を踏まないように注意しながらファーマーのテッドのところへ走って行きました。農夫のテッドは彼女に封筒を手渡した。

中の紙にはこう書かれていました。

親愛なるムージー様

私の名前はタリアです、あなたの助けが必要です！ネバーグリーンシティの154 Attle Roadにお越しください。

心から、

タリア

「うーん、... 何をしたのかしら、とムージーは言いました。「タリアを助けていただければ幸いです。」などムージー、レインボー、ファーマーのテッドはトラックでネバーグリーンシティへ向かいました。

3人が街を見る前に、ムージーはネバーグリーンシティの恐ろしい悪臭を嗅ぎました。ひどいものでした！ムージーは大声では言いませんが、タリアがなぜ書いたのかをすでに感じています。すぐに彼らは街に入った。

街の中で彼らはアトルロードを見つけた。農夫のテッドが154番家のドアをノックすると、タリアがドアを開けました。「皆さん、来てくれてありがとう！」タリアは希望を込めて言った。

「喜んでお手伝いさせていただきますが、どうしたらいいのでしょうか？」レインボーは尋ねた。誰もが思った。

それからムージーは興味津々でゴミ箱を覗いた。リンゴの芯以外は空っぽでした。

"それでおいしい！"ムージーは嬉しそうにうめきました。[コリンはこのフレーズを写真でアニメーション化したいと考えています。]

"どういう意味ですか？"タリアは尋ねた。

「ゴミ箱を使ってゴミを拾いましょう！」ムージーは答えた。

「それは悪い考えかもしれない」とレインボーは言った。「それがどこにあったかはわかりません。」

「うーん...あ！トラックにちょうどそれを積んでるよ！」農夫のテッドはトラックから手袋とグラバーを取り出しながら言った。

アトルロードを終えると、チームは歓声を上げました！それから彼らは町の残りの部分を見た。

「今では決して終わらないよ！」タリアはうめき声を上げた。「まさか、まさか！！」

「諦めるべきではない」とムージーは言った。「市の協力を得たほうがいいかもしれません。」

「素晴らしいアイデアだよ、ムージー！でもどうやって？」タリアは尋ねた。

「心配しないでください、タリア、私には計画があります」とムージーは保証します。

ムージーは歩いて歩いて、町の広場までずっと歩いて、

そしてゆっくりと、しかし確実に空気が満たされ始め、

かつてムージーの体は巨大な球体でしたが、

小さな音が聞こえましたが、最初は聞き取りにくかったです。

それから音はますます大きくなり、さらに大きくなりました

とても高くとても甲高い音になるまで

新しい音を聞きながら住民が出てきた

ムージーが出した音、として知られる音

もーおー！[コリンはこの単語を写真でアニメーション化したいと考えています。]

ムージーのブーイングが止まると、人々は皆彼女に向かって歩き、質問をしました。それからタリア

が出てきて問題を説明した。町の人々は自分たちの町が混乱していることに気づき、

助けることにした。

ついに街全体がきれいになり、町の人々はムージーを応援しました。

「ヒップ、ヒップ、ムージー万歳！」

そして、ムージーとタリアは別れを告げました。

「さようなら、ムージー」タリアは言いました。

「さようなら、タリア」ムージーは言った。「サポートが必要な場合は、お気軽にお問い合わせください。」

そしてムージー、レインボー、ファーマー・テッドはネヴァーグリーン・シティを去る。 …

…しかし、ムージーは名前を変更する必要があると感じました。

著者について：

コリン・バルカは、青銅、おそらく銀の心を持った12歳です。経験はありませんが、趣味で本を作りたいと考えていました。

ファーマー・テッドについて：

そう、ファーマー・テッドは実在し、彼がムージー・ブランドを作ったのです！彼はとても親切で、コリンにムージーの本を作ることをとても喜んでくれました。

本の裏側：

ムージー、レインボー、ファーマーのテッドは、タリアという名前の人から助けを求める手紙を受け取り、彼女を助けなければならないことを知りました。ムージーと友達にネバーグリーンシティを掃除できるでしょうか？それともめっちゃくちゃすぎますか？

ムージーと大きくて醜い虫

牛のビッグムージーはとても優しいです。
彼女ほど優しい生き物は他にいない。

ある雨の日、彼女はルームメイト全員が去っていく中、納屋に
家にいました。

豚たちは鼻を鳴らして泥パイを作っていました。
馬たちは誇らしげに叫びながら駆け回っていました。

ヤギたちは楽しそうにぶつかり合っていました。
年老いた母アヒルは「みんな逃げろ！」と叫びました。

「どうしたの、まあ聞いてみようかな？」と納屋の中のヤギたちが言いました。
アヒルは「それはバグです、警告するつもりはありません。

でもこの虫は大きくて、おやつには大きすぎます。」
馬は「潰してやるから下がってろ」と叫んだ。

豚たちは「ああ、あれは黒いカプトムシのマグカップに2本の角と毛
むくじらの触手を持った、大きくて醜い虫だ！」と言いました。

馬は筋肉質で引き締まった足を高く上げ、牛は「ムージー！ 早く
現場に来て！」と叫びました。」

ムージーは「やめて！」と叫びました。馬の蹄が地面に激突したとき。
動物たちは皆息を止めて集まってきました。

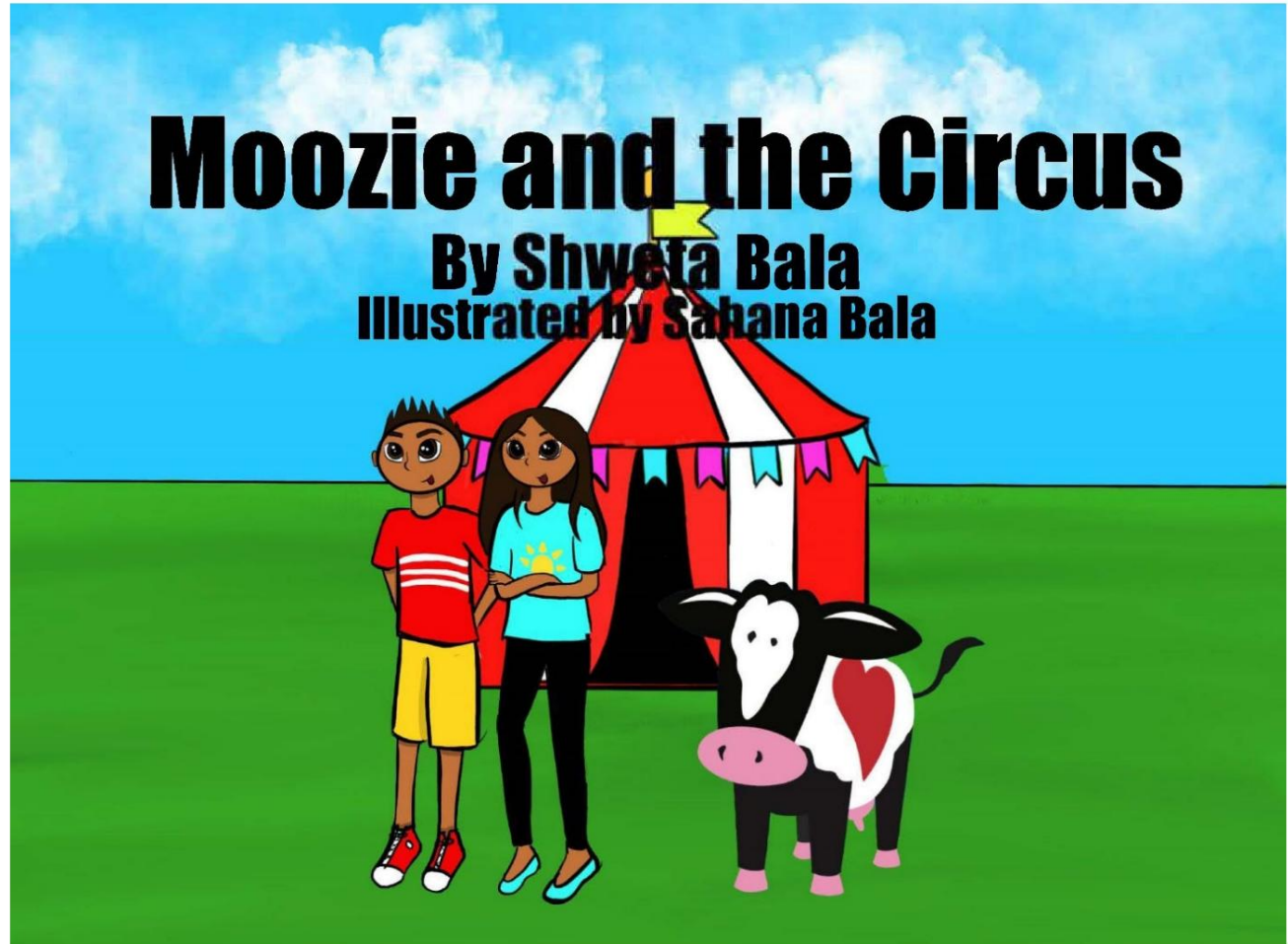
ムージーが土をつつくと、大きな虫が這い出してきました。
動物たちはみな息を吞んで叫び声を上げました。

「ああ、ごめんなさい…ムージーがやめてって言ったんですけど、大きな虫っ
て風変わりです怖いんですよね？」

ムージーは優しい優しい口調でこう始めました。「虫も
本と同じように、見た目だけで判断することはできません。

私たちはさらに深く見て、バグさえも良いものである可能性があることを確認する必要があります。
いつものように、良いものを探そうとします。

昆虫は誰にとっても役に立つことができます、ほら、彼らも
あなたと同じように、私と同じように地球上に居場所を持っています。」



ムージーとサーカス

シュエタ・バラ著
イラスト :サハナ・バラ



「ついに来たよ !目を覚ましてアザーン！」アヤナはカバーを床に放り投げながら叫んだ。

暖かい夏の朝、今日はとても特別な日だったので、彩葉は興奮していました。アヤナとアザーンは双子でした。アヤナは常に自分の本能に従いましたが、アザーンは論理的思考の持ち主でした。彼らは、朝起きる以外のすべてのことを一緒に行うのが大好きでした。

アザーンはゆっくりと毛布を脱ぎ、伸びをした。「ここには何がありますか？ベッドに戻ってもいいですか？」

"冗談ですか！"アヤナは興奮して叫んだ。「今日は私たちの誕生日です！」

アザーンは突然満面の笑みを浮かべ始めた。

"おお !この日をずっと待っていました !下に行って食べましょう朝食を食べて、それからたくさん楽しんでください！"アザーンは叫んだ。

アヤナとアザーンは、これからの楽しいことを考えながら、一緒に歩き始めました。



毎年、彼らの誕生日には、両親は彼らが大好きなサーカス、「サーカス・オブ・ファン」を見に連れて行ってくれました。

「このバースデーショーはこれまでで最高のもになるでしょう！」彩菜はパンケーキを食べながら叫んだ。「ゾウの特別ショーをやっていると聞きました！」

彼らの父親はニヤリと笑いながら答えた。

この旅行がお二人にとって最高のものになりますように。私たちは舞台裏に行ってサーカスのトレーナーに会うことを許可されています！」

それを聞いた彩菜はテーブルから皿を叩き落としそうになった。彼ら二人ともとても行きたがっていました。二人は急いで朝食を食べて車に向かいました。



彼らがそこに到着したとき、ショーが始まるまで1時間あったので、彼らはその場所を見学することにしました。彼らが歩き回っている間、アザーンは地面に疲れて動けないリスを見つけました。アヤナとアザーンはすぐにその可哀想な動物を助けるために走りました。彼らはリスをそっと抱き上げ、日陰の柔らかい草の上に置きました。アヤナさんは水の入ったボトルと地面に落ちているドングリをいくつか手に入れ、リスの前に置きました。リスはすぐに体を伸ばして水を飲み始めました。すると、元気が出てきて動き始めました。ムージーという名前の思いやりのある牛は、近くの茂みからこれらの行動を見て、アヤナとアザーンがサーカスで虐待された動物たちを救おうとしている人たちであることを知りました。ムージーは番組が終わるのを待ってから彼らに話すことにしました。



カーテンが開くと、アヤナとアザーンは驚いた。
象はボールの上で転がり、動物はフープに飛び乗り、曲芸師は何度も逆立ちをします。見事なパフォーマンスの後、アヤナとアザーンは両親に数分後に戻ってくると告げて舞台裏に行き、そこでムージーを見た。アザーンは叫びそうになったが、ムージーがそれを止めて自己紹介した。

ムージーは穏やかに言いました。「こんにちは、アヤナとアザーン。恐れなくてください。私はムージーです。サーカスを見るのは楽しいですが、やっている動物たちにとっては楽しくありません。お二人ともとても優しく賢いお子さんのようですね。一緒に来てください、説明します。」

アザーンはなぜサーカスが動物を傷つけるのか混乱し、なぜ彼はムージーと一緒に行かなければならないのですが、アヤナが彼を説得した後、彼は最終的に行くことに同意しました。



彼らが舞台裏にさらに歩いていくと、カーテンの後ろに隠れて、動物たちがトリックを実行するために鞭で打たれたり傷ついたりするのを見ました。ゾウはうめき声を上げ、サルは悲鳴を上げていました。アヤナ、アザーン、ムージーはさらに長く滞在し、動物たちが行動するまで餌が与えられないことに気づきました。彼らは、動物たちがいたずらをするのにも満足していないことに気づきました。ゾウが滑りやすいボールの上でバランスをとれずに殴られたり、サルが小さな輪を飛び越えられなかったりするのを見るのは非常に困難でした。

アヤナさんは泣き出しそうになったが、ムージーさんがこう言った。「この動物たちはまるで生き物ではないような扱いを受けています。お二人ともお手伝いできますよ。これらの動物たちは、娯楽を求めてやってくる人間を楽しませるために、大変な苦勞をします。」



アヤナとアザーンが主導権を握ることにした。

彩葉が「待って！」と叫んだ。動物を傷つけないでください！」

トレーナーは当惑してこう言いました。「ここで何をしていますのですか？」あなたはそうではありません
ここにいるはずだ。あなたは俳優の楽屋エリアにいます！」

アザーンは「ちょっと聞いてください！」と叫びました。動物を傷つけてはいけません。」

調教師は「この動物たちはまったく言うことを聞きません！」と答えました。アザーン
「それはあなたが彼らを動物のように扱っていないからです。あなたは彼らを傷つけるだけでなく、彼
らの努力に報いることさえしません。
動物にも私たちと同じように感情があります。あなたの自然の生息地ではない場所で、食事や休憩なしで
働くことができますか？それに加えて、本当に嬉しくないことをするのですか？」



トレーナーはため息をつきながら考えた。最終的に彼は彼らが正しいと判断した。

アヤナとアザーンは二人で「動物たちへの優しさを忘れないでね！」と言いました。

トレーナーは笑顔でこう言った。「思い出させてくれてありがとう。昔は動物にとっても優しくかったのに、今は私を見てください。私は彼らを鞭で打ったり、叩いたりしています。私はきっと彼らをもっと良く扱います。君たちは本物の動物調教師がどのようなものであるかを私に思い出させてくれたので、動物たちを撫でてみませんか？」

アヤナとアザーンはすぐに同意し、すべての動物を一頭ずつ撫でることになりました。彼らは、動物たちがこれ以上ひどい扱いを受けなくなることを見て、とてもうれしく思いました。



帰りの車の中で、彼らは両親に起こったことをすべて話しました。

彩菜さんは「今度は動物たちを放し飼いにするサファリに行ってみませんか？」と付け加えた。

彼らの母親は誇らしげな笑みを彼らに向けた。彼女はこう答えました。私が思うにそれは素晴らしい選択肢です。ところで、サーカスではなくサファリを選んだ理由は何ですか？

「ああ、それは私たちのバックステージでの経験から来ました。」アザーンはムージーのことを考えながら答えた。

ムージーとサーカスのクリエイターについて:

シュエタ・バラさんは、「ムージーとサーカス」を執筆した2020年には10歳で、オンライン学校ローレル・スプリングス・スクールの5年生でした。

シュエタさんの妹であるサハナ・バラさんは、カリフォルニア州サンノゼのリンブルック高校の9年生、15歳の時にこの物語を描いた。

Moozie and Children's Kindness Network における彼らの親切な取り組みは次のとおりです。

- ストーリー:
- ミアとムージー
 - ムージーの優しさの魔法
 - ムージーのポジティブな言葉
 - ムージーとサーカス

- 詩:
- ムージーの詩

- パズル:
- ムージーの単語検索
 - 言葉のスクランブルを解く

- ポスター (Covid パンデミックの初期に作成):
- ムージーはマスクを着用するべきだと言う
 - 手を洗うムージー

ムージーは親切な行為を探します

ムージーという名前の牛がいました。

親切で優しい人でした。

彼女は親切な行為を探すだろう

繁華街でも！

ある日、彼女は旅行中に怪我をし

たペットを見つけました。しかし、

彼女は獣医を呼んでいる小さな男の

子も見かけました。

ムージーはこの善行を見て、この

行為は親切だと思い、小さな男の子を

見て、心の中で彼を思い出しまし

た。

ムージーは、刺す蜂を通して旅を続け

ました。親切な行為を見つけるま

では、女の子が木の世話をしていたところ

で、ムージーはその行為に気づき、満足し、満足

しました。彼女は女の子のこと

に気づき、安心して先に進みました。

ムージーは結び目のある草をかき分け、滑車で持ち上げられることを望みましたが、すぐに村を見つけました。そこでは少年が友達をいじめっ子から守っていました。

ムージーはこの行為を見て、とても喜んで、その少年のことをメモし、どこか新しい場所に移りました。

ムージーは検索して検索して、すぐに女の子が自分に良いことを言っている行為を見つけました、それは良い影響を与えました。

ムージーはその光景を見てとても興奮し、また喜んで、少女のことをメモし、少女が朗読していた場所から移動しました。

ムージーはとても幸せでした、そして新しい演技を探し続けました、彼女は今日まで探し続けています、彼女はあなたから演技を見つけることができますか？

Children's Kindness Network のいくつかの作品の作者について:

これらの作品を書いたとき、シュエタ バラさんは 2020 年に 10 歳で、オンライン学校であるローレル スプリングス スクールの5年生でした。

シュエタさんの妹であるサハナ・バラさんは、カリフォルニア州サンノゼのリンブルック高校の9年生、15歳の時に物語とポスターのイラストを描いた。

Moozie and Children's Kindness Network における彼らの親切な取り組みは次のとおりです。

ストーリー:

- ミアとムージー
- ムージーの優しさの魔法
- ムージーのポジティブな言葉
- ムージーとサーカス

詩:

- ムージーは親切な行為を探します

パズル:

- ムージーの単語検索
- 言葉のスクランブルを解く

ポスター (Covid パンデミックの初期に作成):

- ムージーはマスクを着用するべきだと言う
- 手を洗うムージー

ムージーの親切な冒険
ジェーン・モートン
ファーマーテッド&ムージーによる支援
ジェーンロイスによるイラスト

[ページ2]

ビッグムージー牛はできる限り親切です。
彼女ほど親切な生き物は他にいない。

[3ページ]

彼女は尻尾でハエを優しくフリックして立っています、
トレイルの近くで遊んでいる3羽のアヒルの子を見ながら。

[4ページ]

彼女は何かが来るのを聞いて耳を刺します。

[5ページ]

さて、彼女が聞くこの太鼓の音は何ですか？

[6ページ]

牛の鳴き声。群れは外出中です。

[7ページ]

それは彼女の道を下の谷に向かっている。

[8ページ]

牛は水の匂いを嗅ぎ、スピードを上げます。

[9ページ]

動きの速いトロットはすぐにスタンピードになります。

[10ページ]

Moozieが群れ全体を好転させることができない場合、
彼らはアヒルの子を地面に踏みつけます。

[12ページ]

彼女はアヒルの子を邪魔にならないように撃ち返そうとします、
しかし、彼らはまだ戯れ、遊び続けています。

[13ページ]

彼女は3人を保護するために近づこうとします。
彼らは保護されません。彼らはむしろ自由に走りたいのです。

[14ページ]

「他に誰もいないので、それはすべて私次第です。
私は群れを回さなければなりません。私がやります」と彼女は言います。

群れが近づいてくると、ほこりがかき回されます。

「私は群れを変えることができます。はい、やります。私はしなければならない。」

[16ページ]

彼女はいくらかの空気とさらに多くの空気を取り入れ、すぐに大きなムージーは熱気球のように膨らみます。

[18ページ]

そして、ムージーが破裂するかもしれないように見えるとき、小さな音が彼女から逃げ出し、最初はうーんと音がします。

彼女は奥深くに蓄えられた空気を利用し、

Moooooを送るために。

彼女のMooooooooは、丘から急上昇するときに力を集めます。

彼女は群れが止まってじっと立っているのとても激しく怒鳴ります。 Mmmmmmmoooooooo

[20ページ]

雷が牛を恐怖で満たすように大きな反響があります。

群れはぐるぐる回り、すべての未經産牛と去勢牛。

[22ページ]

彼らは新しい道を進んで水に向かって進みます、

3匹の小さなアヒルの子がお風呂に入ります。

[24ページ]

母親のアヒルは、「私の乗組員を救ってくれてありがとう。

あなたより親切な生き物は他にいません。」

「私はたった1頭の牛です。それはすべて私次第でした。

私は群れを変えました、そしてあなたは歓迎です」と彼女は言います。

ムージーの 魔法 優しさのメッセージが書かれた塗り絵

に サラ ベック

ケイティ・オルセンによるイラスト

[ページ2]

一度 その上 a 時間
の a 家 ただ お気に入り あなたのもの
住んでいました a 勇敢 少し 女の子
と 茶色 目 と カール。

[3ページ]

彼女 だった いいえ いつも 勇敢 -
ただ a 顔 の the 群衆
と a 魔法の 友達
名前付き ムージー the 牛。

[4ページ]

今 ムージー だった ぬいぐるみ、
ただ a つめた 少し 牛
と a ハート-形 房
の 髪 オン 彼女 額。

[5ページ]

だが いつでも the 女の子
was わからない また 恐れ
彼女 ささやきました に ムージー
で 夜 なので 彼女 敷設。

[6ページ]

今 一 夜 the 女の子
持っていました それで 多くの オン 彼女 マインド
それ 彼女 できませんでした ストップ 話している
なので 難しい なので 彼女 試しました。

[7ページ]

と ムージー ただ 聞いた
で 最初 なので 彼女 泣いた
それ the キッズ で 彼女 学校
残酷だった と 不親切。

[8ページ]

「彼らは 平均、” 彼女 言った、

「そして 私 知る それ これは 違う
しかし 私 一度もない 取る 側面-
私 ただ 行く 平行。”

「あります ー 少年」 言った the 女の子、
「そして 彼の 名前 は フィン。
彼は a 少し 少し 違う -
彼 しません フィット の。”

[9ページ]

”私 考える 彼 どうやら 良い
と 私は お気に入り に なれ 友達、
しかし 何 もしも the 他の キッズ
楽にする 自分 お気に入り 彼？”

[10ページ]

”おー ムージー」 彼女 言った、
「もし それだけ 君 知っていた
どうやって 多くの 私 願い
私 知っていた ただ 何 に する。”

[11ページ]

それで すべての の a 突然
の the 点滅 の と 目
ムージー 始めた に 輝き
お気に入り a ホタル。

[12ページ]

とともに 繊細 ブーム
と a ちらつき の ライト、
ムージー だった 立っている
正しい そこの の プレーン 視力！

として 高い なので the ドレッサー、
なので 幅 なので the ベッド
と a ハート型 房
の 髪 オン 彼女 頭。

[13ページ]

”私の 友達」 ムージー moo-ed。
「あなたは 持ってる 尋ねた 自分 ために ヘルプ
to _ 学び どうやって に なれ 親切
to _ フィン と あなた自身。」

[14ページ]

”と 私は 学んだ a 少し トリック
の わたしの 生活 なので a 牛、
しかし 病気 教えて 君 the 真実-
あなたは すでに 知る どうやって。”

[15ページ]

”いつ the 世界 は 不親切
と 君 しないでください 知る 何 に する、
考える だいたい どうやって 君 欲しいです
the 全体 世界 に 扱う 君。”

[16ページ]

”これは a 単純 ルール
それは 簡単 に テスト。
ただ 聞く に 君の ハート-
y ou’ll _ _ 探す それ 知っている 一番。”

The 少し 女の子の 涙
持っていました 乾燥 オン 彼女 顎
なので 彼女 見た 上 で ムージー
と 言った と a にっこり、

[17ページ]

”は それ 本当 なので 単純
なので それ の the 終わり？
これ 承知しました だろう なれ 良い
to _ 持ってる a 新着 友達。」

[18ページ]

「あなたは 知る、 私は その間 考え
私 そうかもしれない 聞く フィン
もしも 彼は お気に入り に 座る と 自分
で ランチ 今 と それから。”

[19ページ]

と ムージー moo-mooed
と 彼女 目 きらめき 明るい
として 彼女 笑った と 言った
「あなたは 知る、 私 考える それ 彼 そうかもしれない！」

[20ページ]

The 女の子 置く 彼女 腕
その周り ムージーの 柔らかい 首
と ささやきました、「ありがとう 君
ために であること わたしの 友達。」

[21ページ]

“おー 子、” ムージー moo-ed、
「それは わたしの 仕事、 後 すべて -
に なれ ここ いつ 君 必要 自分、
to _ 来て いつ 君 電話。”

[22ページ]

“ただ させて 君の 心臓 歌う
と_ 私 意思 なれ ここ、
それで さようなら ために 今…」
と ムージー 消えた！

[23ページ]

The 女の子 だった 左 ホールディング
a 着用 少し 牛
と a ハート型_ 房 の 髪
オン 彼女 額。

[24ページ]

と 彼女 微笑んだ なので 彼女 させて 彼女自身
ドリフト オフに ベッド、
夢 の 魔法
と 作る 新着 友達。



ムージーの優しさの魔法

親切にしてください

シュエタ・バラ著
イラスト : サハナ・バラ



「タグ、君だよ！」マックスは休み時間に校庭を走りながら叫んだ。天気が良く晴れた日だったので、午後はたくさんのことで遊ぶことができました。

マックスは鬼ごっこをして走り回っていましたが、突然、小さな女の子が旅行して地面に落ちます。彼女が持っていた本はすべて地面に散乱した。地面の朝露で本がびしょ濡れになった。マックスは親切な人のように彼女を助ける代わりに、彼女がどれほど不器用であるかを笑い、嘲笑し始めました。女の子は泣き始めて立ち去りました。1時間後、マックスは校長室に呼ばれました。



マックスが到着すると、ハギンズ校長は彼に状況を説明させた。彼が話し終わると、彼女は「なぜ助けずに彼女を笑ったのですか？」と尋ねました。

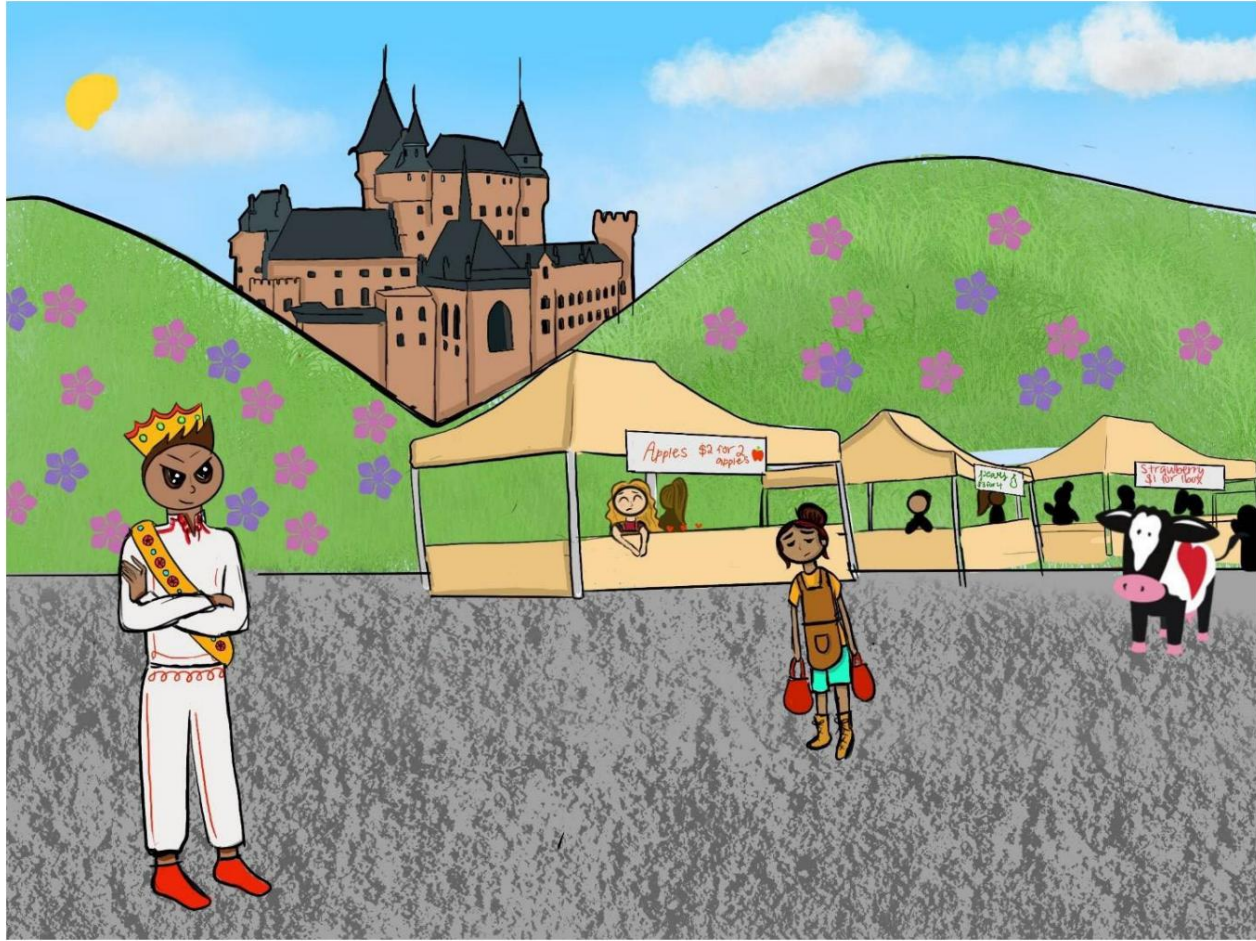
マックスは「彼女が岩につまずいたときは本当に面白かった」と答えた。

「そんなことはすべきではない、マックス。もしあなたが彼女の状態だったら、あなたもとても傷ついただろう。あなたは他の人に優しさを示すべきです。出発する前に、読んでおくことをお勧めする本があります。あなたは今行くかもしれません。」

イライラしたマックスはオフィスを出て授業に戻りました。



その夜遅く、マックスは学校の課題を終えたとき、校長がくれた本を読むかどうか迷っていました。他に読み終えるものが何もないので、本を読むと思います。マックスは思った。彼は本を開いて読み始めました。物語は次のように始まりました。



昔々、優しさの王国に、リアム王子という名前の王子が住んでいました。彼は自分が他の誰よりも優れていると考えていました。彼は非常に不親切で、村人たちを批判していました。彼は毎日、宮殿のことや、自分がどれほど贅沢をしているかを自慢していました。そして、市場がどれほど汚いのかについて人々をからかい始めました。多くの人が彼のこの行動を好まなかった。



王子の様子を聞いた優しい牛は、
ムージーは彼を助けることにしました。

ムージーがそこに着くと、「こんにちは、優しさの国の王子様！」と言いました。村人たちはあなたの言葉に腹を立てています。村人になって村を散策しましょう。」少し説得した後、王子は同意し、彼らは旅行者に変装して村の散策を始めました。彼らが最初に出会った村人はイザベラでした。



ムージーは会話を始めました。「王国ではなんて素晴らしい日でしょう。そう
思いませんか？この王国はどうですか？私たちはここに住もうと考えています。」

イザベラはこう答えました。「晴れた日に優しさの王国で通りを歩くのが大好きで
す。この王国は素晴らしい場所です。ここで私が嫌いな唯一の人は王子です。最近彼に会っ
て、熱心に挨拶しました。彼は私の服をくすんで汚いと言いました。その意地悪なコメントは
本当に私を傷つけました。彼が私の服や見た目以外を見ることができないのは悲しいです。
王子ならもっと詳しいだろうと思ったのに。」



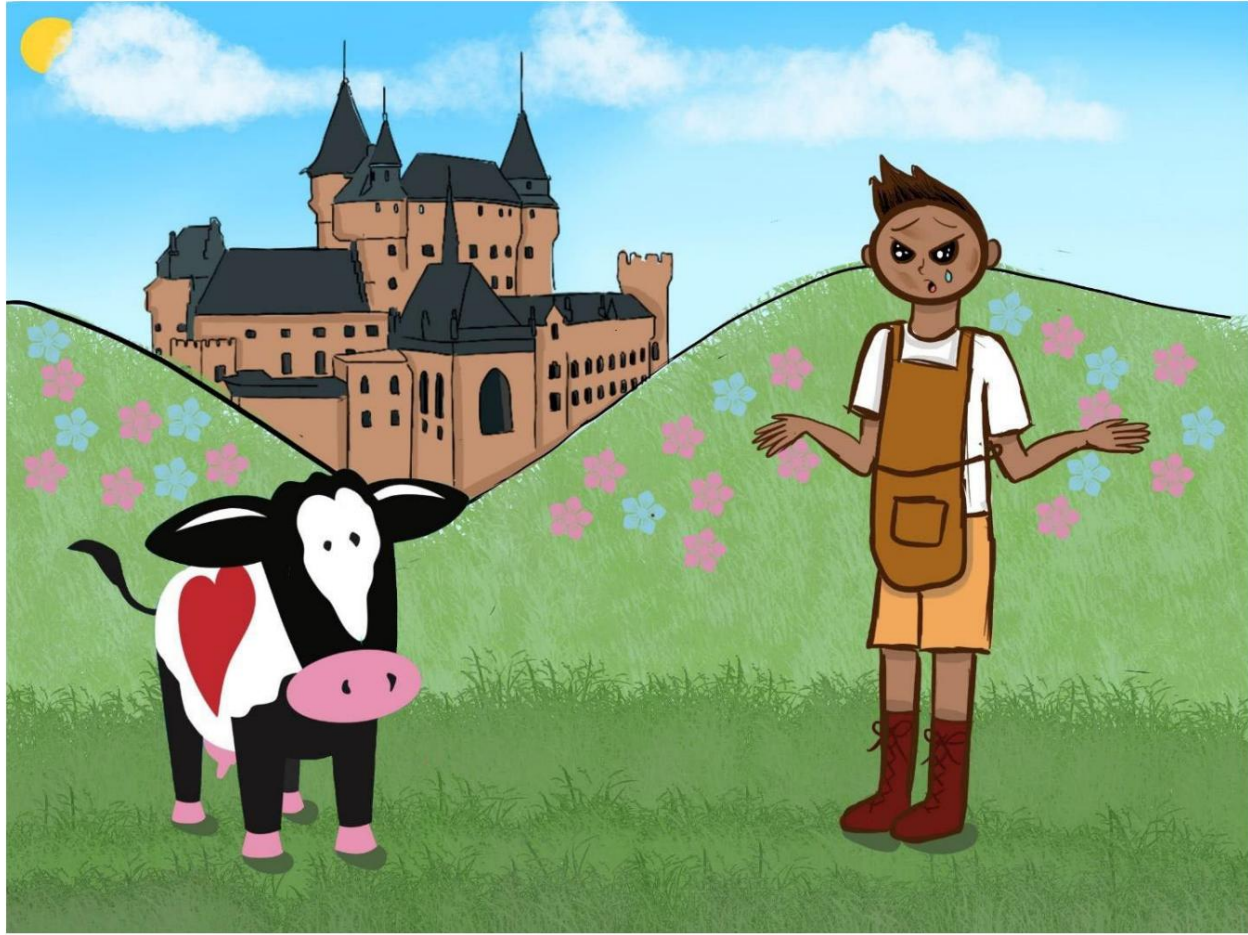
彼女を認めた後、彼らは別の村人、ジェームスのところへ歩きました。
そして王国での生活について何気ない会話を始めました。

ジェームズはムージーにこう答えた。「王子以外は村が大好きだよ。
私は彼が私に言った言葉に傷つきました。先週、私が足を骨折したとき、彼は私を「跳ね
るウサギ」と呼びました。私たちの王子が人々に意地悪なことを言っているのを見るの
は心が痛みます。他人の痛みに共感できないのが悲しい。王子として、私は彼がもっと
よく知っているだろうと思った。すみません、もう行かなければなりません。」



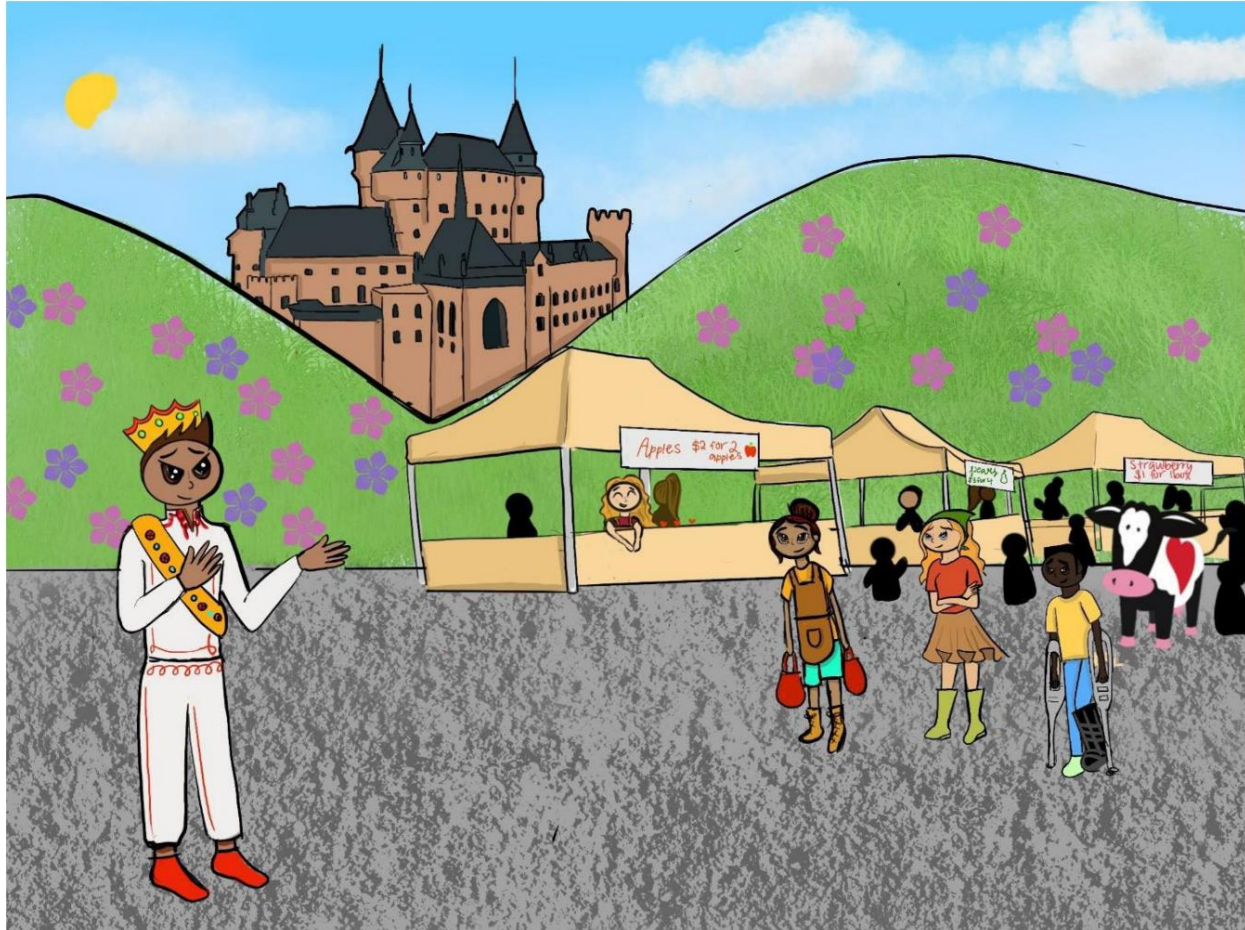
それで、王子とムージーは散歩を続け、アビゲイルに会いました。

アビゲイルは「王子以外はみんな優しい。彼は本当に他人に対して意地悪で決して親切ではありません。私が、私が彼のために宮殿の台所で働いていて、毎日彼に仕えていると言うと、彼は、私が宮殿で働いているとは全く気付かず、私が召使いになるはずだったのだと言いました。彼が仕事の内容で人々を見下し、勤勉を評価できないのは悲しいことです。」



王子はもう十分聞いたので、宮殿に戻るように頼みました。戻ってくると、王子は「ごめんなさい、ムージー。村人全員に対してそれほど意地悪をするべきではなかった。もし私が彼らの立場だったら、私も本当に動揺したでしょう。人を悪く言うのは正しくありません。それは敬意を表したものではありません。許してくれませんか？」

ムージーは彼を許し、常に他人に親切にすることを教えました。



翌日、王子は近隣住民全員に謝罪した。
そして、人々に親切で親切であるという教訓を学んだ、と話しました。
村人たちは彼が教訓を学んだことを知り、彼の謝罪を受け入れました。優しさの王国の人々は皆、いつまでも幸せに暮らしました。終わり。

マックスはしばらく考え込んでいた。



学校でマックスは、その少女が一人でベンチに座っているのを見かけました。

彼は彼女に近づき、こう言いました。私はしませんでした

私が人をひどく傷つけていることを知っています。許していただけると幸いです。」

少女はこう答えました。「分かってくれて嬉しいよ。それには

もっと大きな人が謝罪してください。ちなみに私の名前はエイミーです。」

「エイミーに会えて嬉しいよ。私はマックスです。一緒に遊びませんか
いつか？」エイミーは笑った。"もちろん。それは素晴らしいですね。さようなら、マックス！」

「さようなら、エイミー！」



その日以来、マックスはその話をずっと覚えていて、いつも他人に優しくするようになりました。彼は他の人が必要なときに助け、二度と他の人をからかうことはありませんでした。彼がいじめをやめたことでみんなが喜んでいました。その月、学校で彼は「優しさ賞」に選ばれました。

*****終わり*****

Moozie's Magic of Kindness の作成者について:

シュエタ・バラさんは、「ムージーのやさしさの魔法」を執筆した2020年には10歳で、オンラインスクールであるローレル・スプリングス・スクールの5年生でした。

シュエタさんの妹であるサハナ・バラさんは、カリフォルニア州サンノゼのリンブルック高校の9年生、15歳の時にこの物語を描いた。

Moozie and Children's Kindness Network における彼らの親切な取り組みは次のとおりです。

ストーリー:

- ミアとムージー
- ムージーの優しさの魔法
- ムージーとサーカス

詩:

-
- ムージーの詩

パズル:

- ムージーの単語検索
- 言葉のスクランブルを解く

ポスター (Covid パンデミックの初期に作成):

ムージーはマスクを着用するべきだと言う
手を洗うムージー

Moozie®のオーケストラアドベンチャー
音楽の旅を通して優しさを発見する
トム・イーストン著（ファーマー・テッドとムージー®の支援）
ケイティ・オルセンによるイラスト

[3ページ]

それでは、Tiny Tinny TriangleがMoozieのBIGオーケストラに参加した話を聞いてみましょう！

[4ページ]

今では、牛のムージーができる限り親切であることを誰もが知っています。彼女ほど親切な生き物は他にいない。
オーケストラの最新の楽器が納屋のドアに入ると、ムージーは尻尾でハエをそっとフリックすることで待機します。

[5ページ]

そしてムージーは言います。あなたの名前は何ですか？”
「私の名前はTinyTinnyTriangleですが、誰もが私をTTと呼んでいます」とTTはMoozieに言います。

[6ページ]

”なぜあなたはここにいるのですか？”ムージーは尋ねます。
TTは、「私はBIGオーケストラに参加するためにここにいますが、恐れています」と述べています。
「なぜあなたは恐れているのですか？」ムージーは尋ねます。
TTは、次のように述べています。他のすべての楽器よりも小さいです。私は新しいです。私は他の楽器を知りません。そして、音楽を演奏するときに鳴る音がわかりません！」
Moozieは、次のように述べています。「まあ、私の新しい小さな友達、私はすべての楽器を知っているので、それらを紹介します。私たちはあなたがあなたの音を見つけるのを喜んでお手伝いします。文字列セクションに行きましょう！」

[7ページ]

ムージーがチェロを指差すと、チャーリー・チェロはオーケストラの最古のメンバーの1人であるとTTに話します。
TTは、ムージーが他に何を言っているかを聞くのを待ちません。彼はチェロに駆け寄り、「私はティニートライアングルです。私の音を見つけるのを手伝ってくれませんか？」

[8ページ]

”私をほっといて。練習中です。私はあなたのような人を助けるにはあまりにも重要で忙しいです。小さなバイオリンの1つを見に行きます。弦が短く、小さなものが好きです。たぶん彼らはあなたを望んでいるのかもしれませんが」とチャーリー・チェロはうなりました。

[9ページ]

TTはMoozieに戻り、「彼はあまりいい人ではなかった」と言います。

「TT、すべての弦楽器がチャーリーチェロのようであるとは限りません」とムージーは言います。

[10ページ]

突然、バクスターバスは叫びました。私たちは皆、その男のようではありません！みんな仲良く！ええと、少なくともここバスランドでは、みんな仲良くしています！」

[11ページ]

そして、ヴィオラ・ヴィオラは次のように付け加えています。「TT、最初に出会った弦楽器ですべての弦楽器を判断しないでください。しかし、チャーリーはあなたがバイオリンと話すべきだと言った。彼らは高く速くプレーし、そして良いそして友好的な束です。」

[12ページ]

そこで、ムージーとTTはロレッタヴァイオリンに会いに向かいます。ムージーはこう言います。「こんにちは、ロレッタ。これは私の新しい友達であり、これは彼の最初のリハーサルですが、彼は彼の音を見つけることができません。」

「音が出ないの？音が出なかったのを覚えている理由。しかし、それから私は自分の音の秘密を見つけました」とロレッタヴァイオリンは言います。

TTは「あなたのサウンドの秘密は？」と尋ねます。

「はい、私にとって秘密は私の弓でした。ここで、あなたはそれを試してみます。弓はあなたの内側から音楽を飛躍させます！」

[13ページ]

それでTTは弓を取り、それを彼の右側を横切って動かし始めますが、音は出ません。TTは弓をロレッタに返し、「ありがとう、ヴァイオリンさん。弓が私の音の秘密だとは思いません。」

「TT、心配しないでください。あなたはあなたの音を見つけるでしょう。そして、あなたは何かを知っていますか？あなたと私は今友達です。サウンドを見つけたら、いつでも戻ってきて一緒に演奏できます。ムージー、TTを木管楽器に乗ってみませんか。彼らが喜んでお手伝いしてくれると確信しています。」

[14ページ]

彼らが立ち去ろうとすると、ムージーはTTに「今は気分が良くなりましたか？」と言います。

“はい、そうです。ロレッタと彼女の友達に私は親切で親切でした、大きな低音さえも素晴らしいかったです。私はそれらすべてが好きでした」とTTは言います。

[15ページ]

Moozieは最初の椅子のクラリネットを指さし、TTに自己紹介をするように合図します。そしてTTはこう言います。「すみません、マダム。私の名前はTinyTinyTriangleです。自分の音を探しています。手伝って頂けますか？」

[16ページ]

Reeda Clarinetは、次のように述べています。あなたは三角形です。あなたはオーケストラの後ろに所属しています。彼らがオーケストラの後ろに三角形を置いた理由を知っていますか？あなたは重要ではないからです！私をほっといて。あなたの代わりに行きなさい。後列に！」

[17ページ]

拒否されたと感じて、TTはムージーに向かって歩きます。ムージーはこう言います。ビリー・ジョー・ピッコロ、オリビア・オーボエ、ホブソン・ファゴットの3人の木管楽器に会ってほしい。彼らはあなたがあなたの音を見つけるのを助けるかもしれないと思います。」

[18ページ]

彼らは一緒に歩き回り、ムージーは言います。「これは私の友人、TTです。彼はオーケストラに不慣れで、自分の音を見つける必要があります。」

Bill ie Jo Piccoloはすぐに「ねえ、小さな男！自分の音を見つけるのに10秒しかかかりませんでした。その記録を打ち負かすことができると思いますか？」

[19ページ]

オリビア・オーボエは冷静にこう言います。「ビリー・ジョー、TTを気にしないでください。だからあなたはあなたの音を探していますか？ええと、私たちはそれぞれ自分の奥深くに自分の音を持っています。このセクションでは、葦が私たちのほとんどの秘密です。ここで、TT、私の葦を試してみてください。たぶん、これがあなたのサウンドの秘密です。」

そして、ホブソンファゴットは、次のように付け加えています。葦は全世界を振動させ、生き生きとさせます。さあ、試してみてください-それは簡単です！やっつけろ！」

[20ページ]

TTは葦を手に取り、口に入れて吹く。（吹く音）でも音が出ない。そこでTTはオーボエ夫人に葦を返し、「ありがとう、オーボエ夫人、あなたはとても親切です。葦は秘密ではありません。葦はあなたにとっては美しく機能しますが、私にとっては機能しません。」

「あなたはあなたの音を見つけるでしょう、私はあなたがそうすることを知っています。ここにアイデアがあります。あなたは金属でできています！あなたとムージーは真鍮のセクションを試してみませんか？彼らは私たちのすぐ隣にいます！」

[21ページ]

TTが歩いて、光沢のあるホーン、トランペット、トロンボーンを見ていると、

[22ページ]

彼は誤って非常に大きな楽器にぶつかりました。TTはオーケストラのいじめっ子であるマックスチューバにぶつかりました。マックス・チューバはうなり声を上げます。ここから吹き飛ばす前に、ここから出て行け！」

[23ページ]

そしてムージーは言います。「マックスチューバ、それは親切ではありませんでした。彼は害を意味するものではありませんでした。それは事故でした。これは彼の最初の日であり、彼は彼の音を探しています。」

マックス・チューバの光沢のある真鍮の肌が恥ずかしさで赤くなると、彼はつぶやき、うめき声を上げて喉をすっきりさせ、「ああ、ごめんなさい。私以外の人のことは考えていませんでした。おい！滑りやすい、スライドするトロンボーンがサウンドを見つけるのに役立つかもしれません。」

[24ページ]

ムージーがいつも親切だと言っていることをよく覚えているので、TTはまっすぐに立ち、マックス・チューバにこう言います。あなたはとても大きくて明るいです。私はトロンボーンを見に行き、彼が私の音を見つけるのを手伝ってくれるかどうか彼に尋ねます。」

Gruff Max Tubaは柔らかくなり、こう言います。頑張って、子供、そしてオーケストラへようこそ。」

[25ページ]

MoozieはTTに、「あなたの優しさがMaxの曲を変えるのにどのように役立ったかに気づきましたか？」と尋ねます。

[26ページ]

ちょうどその時、ラモン・トロンボーンはこう言います。ラモンです。真鍮のセクション全体に牛肉はありません。」

するとAvaHornはこう言います。「あなたは自分のサウンドを探していますか？私たちの音の秘訣は、たくさんの空気とマウスピースです。聞く…”

[27ページ]

「私はドナルドトランペットです。すべてについてよく知っています。ラモン、TTにマウスピースを渡してください！多分それは彼の音の秘密です。あなたがしなければならないのは、唇をバタバタさせて、本当に激しく吹くだけです。」

[28ページ]

だからTTはマウスピースを取り、吹くと吹くと吹く。しかし、音はありません。失望したTTは、マウスピースをRamon Tromboneに戻し、「ありがとう、Ramonですが、マウスピースが機能しません。それはあなたとあなたの光沢のある真鍮の友人にとって素晴らしい働きをします。みなさんととてもいいですね！ピカピカでこのオーケストラにいることを誇りに思います。」

[29ページ]

彼らが立ち去るとき、ムージーはTTにこう言います。「マウスピースで一生懸命頑張ってくれたこと、そしてラモンとすべての金管楽器に親切にしてくれたことをとても誇りに思います。あなたの優しさは他の人を気持ちよくさせます。」

「親切であることは私も気分が良くなります」とTTは言います。TTは他の楽器に対する優しさには満足していますが、それでも自分の音を見つけることに不安を感じています。

[30ページ]

彼は言います。「ムージー、私たちはひもに行ったことがあります。私たちは木管楽器に行ってきました。真鍮のセクションに行ったことがあります。」

[31ページ]

「他にどこで私の音を探すことができますか？」

[32ページ]

「ああ、私たちが行ったことのない場所が1つあります。なぜ私はこれを前に考えなかったのですか？それは彼らが私の牛の鐘を保つ場所です。パーカッションのセクションに行きましょう。」

[33ページ]

それから彼らはジャック・ティンパニが叫ぶのを聞きます。私たちのほとんどが音楽を作っている間立ち上がって動き回る後列へようこそ。あなたのことを聞いたことがあります。言葉はあなたがあなたの音を探している新しい打楽器であるということです。あなたは正しい場所に来ました。パーカッションはここで話されています。友達の話聞いてください。私は考えを持っています、なぜあなたは私の親友、ケイデンスに会うためにロールオーバーしませんか。ねえ、ケイデンス！熱い新しい三角形に出会ってほしい。彼は優しい魂であり、才能に溢れています。彼が行動に移すのを手伝ってください！」

[34ページ]

MoozieとTTは、有名なDrumファミリーのCadenceSnare-Drumに会いに行きます。ケイデンスは、「こんにちは、TT、私はケイデンスです。私はビッグバンド、スモールバンド、マーチングバンド、ロックバンドで演奏しました。私と私の友達のリズムに耳を傾けてください。」ケイデンスと彼の友達のすべての音に驚いて、TTは「WOW！」と言います。ケイデンスのスネアドラムは、「はい、TT、そしてそれらのサウンドの多くがあなたと同じように「クールなワンノート」によって作られていることを知っていますか？」と言います。ビーターを指差してこう言います。それがあなたのサウンドの秘密かもしれません。」

[35ページ]

ビーターを手に取って、TTは言います。**自分の音を見つけました！」**彼女の友人が彼が探していたものを見つけたので、ムージーは喜んでうめき声を上げました…彼の音の秘密。TTはもう恐れていませんでした。

[36ページ]

オーケストラのさまざまなセクションがそれぞれのパートの練習に忙しくしていますが、全員をまとめるとどうなるか見てみましょう。

[37ページ]

Moozieは、あなたが親切であるとき、あなたは気分が良く、あなたが親切である人は気分が良いことを覚えてほしいと思っています…そしてあなたの親切な行為を見ている人も皆気分が良いです。

ほら、親切であることは私たち全員と一緒に遊んで美しい音楽を作るのに役立ちます…どんなに異なっているとしても！